

女性が選好するアメニティ空間と家具に関する研究 (4)

—Research on the amenity environment and furniture reflecting women's preference (4) —

中川 麻子¹, 森田 舞², 嶺野 あゆみ², 浅田 晴之², 井上 俊也³, 林原 泰子⁴

Asako Nakagawa¹, Mai Morita², Ayumi Mineno², Haruyuki Asada², Toshiya Inoue³, and Yasuko Hayashibara⁴

¹大妻女子大学家政学部被服学科, ²株式会社岡村製作所フューチャーワークスタイル戦略部,
³大妻女子大学キャリア教育センター, ⁴大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科

キーワード : 女性, オフィス環境, 家具

Key words: Woman, Office space, Furniture

1. 研究目的

女性の社会進出が推進される中, 女性の心理的・身体的特徴に対応し, 女性が快適に過ごせるオフィス環境, アメニティ空間, 家具の改善等も始まっている。しかし, この分野の研究は未だに十分とは言えず, 多くは男性を中心に計画され, また女性が好みそうなイメージだけで制作されているのが現状である。こうした状況から, 真に女性の心身の特徴, 美意識, 選好を反映したオフィス家具, アメニティ空間を作り出すことは, 社会的ニーズが高いだけでなく, 家具業界への影響も大きい。本研究は, オフィス家具業界の(株)岡村製作所と大妻女子大学が協働し, 女性の選好と美意識からみたオフィス家具とアメニティ空間に関する基礎研究を行った。調査は, 質問紙調査, データ解析, 実物大模型による官能検査, モデル製作を行い, 女性が選好するオフィス環境, アメニティ空間, オフィス家具の要素を明らかにし, 製品化に向けた椅子デザインの提案をすることを目的とした。

2. 研究実施内容

本研究は平成 26 年度から継続的に行われてきた。初年度は, オフィス椅子を例に挙げ, 20 代女性が選好するデザインと色彩について調査を行った。女子大学生および女性オフィスワーカーに協力を得て, 選好基準のキーワードとして「かわいい」の語を用いて, 椅子デザイン 326 サンプルを収集し, 代表 60 サンプルを抽出した。女子大学生 17 名に対して質問紙調査を行い, 結果を集計し, 女性が好むデザイン要素についてクラスター分析した。若年の女性の評価では, 「かわいい」かつ「座

りやすそうな椅子は見られなかった。また, 若年の女性が選好する椅子は, 6 つの異なる特徴のクラスターに分類できた。さらに, くつろぎ感とボリューム感の 2 軸を用いて, 椅子の位置付けをポジショニングマップに示した。

2 年目の平成 27 年度は, アンケート対象者の拡大に向けて, 調査方法の修正と項目の精査を行った。2 回のプレ調査を実施し, 改変したアンケートを 20~70 代の男女 250 名を対象に実施し, 年代および性別による椅子の選好基準, および心理的な効果と椅子の選好基準との関係を明らかにした。合わせて, 女子大学生 120 名を対象に椅子の色彩の嗜好調査を行ない, 学生と協働して椅子の企画・デザインを行った。

3 年目である平成 28 年度では, 前年度に得たデータの詳細な解析を行い, 属性による椅子に対する選考基準を明らかにした。中でも 20~30 代の若い女性は, 他の年代の男女との嗜好と異なる傾向が見え, この世代の女性にむけた製品化に対しては, 独自の基準を設ける必要があることがわかった。合わせて 20 代女性を対象に, 椅子の張地サンプルと実物大モデルを用いて SD 法による調査を行った。

4 年目である今年度は, 平成 28 年度に行った調査のデータ精査と椅子デザイン案の試作を目標に研究を進めた。

前年度の結果をもとにし, 20 代女性, 30 代女性, 20~30 代の男性について各属性における因子得点を比較し, 20 代女性特有と判断できそうな椅子の形態を探った。

椅子の評価から 20 代女性の第一因子を「座りたい」「気持ち落ち着く」「リラックスできる」な

どの「なごみ」系と、「仕事・勉強をする椅子としてほしい」「やる気になる」といった「活力」系を第二因子とした。第一因子の比較では、20 代女性の評価、女性の評価、20 代（男女）の評価が特徴の椅子 4 つが挙げられた。この 4 つの椅子から連想される形態イメージは「サイズが大きい」「後傾」「横長」「ひじ無」「脚が短めまたは無」「ゆったり」「厚い」「やわらかい」「背が柔らかそう」「包まれる・埋もれる感じ」「背が委ねられる」「モチーフ」であった。第二因子の比較では、20 代女性の評価、20 代（男女）の評価が特徴の椅子 3 つが挙げられた。この 3 つの椅子から連想される形態イメージは「動かしやすい」「軽い」「薄い」「きゃしゃ」「シャープ」「作業性がよい」であった。

また椅子の評価項目は「形状」「印象」「感情」「欲求」「現状」の 5 つに分類することができた。特に「欲求」の評価項目とは「癒される、気持ちが落ち着く、気分転換になる、リラックスできる」等の「感情」の評価項目と相関が高いことがわかった。これらの結果から、20 代女性の「欲求」の評価が特徴的な椅子を選出して特徴を洗い出し、その特徴に該当する既存の椅子を選出した。

既存の椅子デザインから、横幅(500mm, 600mm, 700mm)、背の厚さ(100mm, 200mm)、背の高さ(200mm, 300mm, 400mm)、座のふくらみ(フラット、カーブ)脚の形状(断面が角または丸)、脚の主軸(斜め、直線、なし)について設定した。これに加え、背の傾斜(直線、丸み)、背の上部(直線、丸み)、座の膨らみ方などのデザインバリエーションも加え、パーツ 159 個を 3DCG で作成した。この 3DCG を用い、学内で使用したい椅子の具体的なプロポーショナルと形状についてアンケートを実施した。椅子の設置場所は大学構内のラウンジ(勉強、レポート作成、飲食、おしゃべり、グループワーク等を行う)ラウンジを設置場所と想定した。プレ調査 2 回(7 名×2 回)を経てアンケート方式を検討し、改善したアンケート用紙を用いて大妻女子大学の 20 代学生を対象に 2 回の質問紙調査を行った。

1 回目のアンケートでは、28 名の学生を対象に、椅子プロポーショナル 54 種類の一覧から、大学内

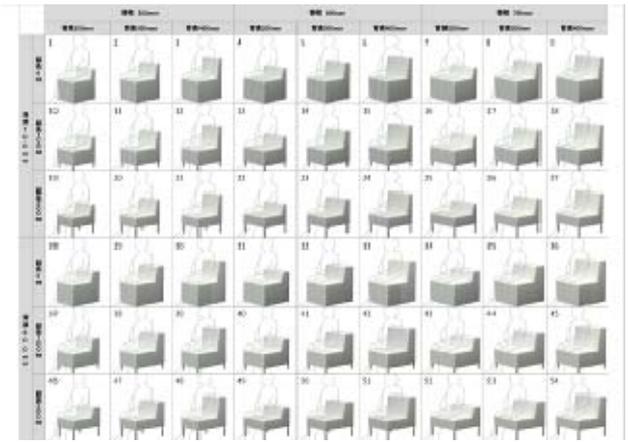


図 1. 椅子プロポーショナルのアンケート

のラウンジで「飲食」「レポート作成」「グループワーク」「おしゃべり」の際に、座りたいと思うプロポーショナルの椅子をそれぞれ 1 つずつ選び、番号と選んだ理由を記入してもらった(図 1)。この結果、横幅が狭く、背が高く、脚がある椅子が「飲食」および「レポート作成」の 2 つのカテゴリーで最も座りたい椅子として選ばれた。また「おしゃべり」では脚がなく背と座の厚みがある椅子、「グループワーク」では脚があり、背もたれが高すぎない椅子が選ばれた。2 回目のアンケートでは、1 回目選ばれたプロポーショナルの椅子について、背もたれの形状などのデザインバリエーションを一覧とし、1 回目と同じシチュエーションで座りたいと思う椅子、選んだ理由、目安の時間、改善してほしいデザインについて記入させた。現在結果を集計しており、精査し 3 月末までに結果をまとめる予定である。

3. まとめと今後の課題

大学構内におけるレポート作成や飲食などには、ゆったりとしながらも、姿勢を保てリラックスしすぎない椅子が選ばれる傾向が見られた。またグループワークでは移動や会話といった行動のために、動かしやすい椅子が選ばれる傾向が見られた。

今後は結果の精査を進め、女子大学の構内で実際に使用する椅子として実物化を視野に入れながら、椅子製作の専門家に意見を仰ぎながら検討を進める。また、椅子の選好基準について、20 代女性の特徴および他の属性との比較についてまとめ、今後の椅子デザインに向けた提言を行う。